

リニューアルの背景

練馬区立美術館の『これまで』

練馬区立美術館は昭和 60 年 10 月、博物館法に基づく美術館として開館し、区にゆかりのある作品や日本の近・現代美術を中心とした作品の展示、収集、保存、調査研究活動を通じて、区民の芸術活動の推進に大きな役割を果たしてきました。

開館時から収集してきた収蔵コレクションは、名誉区民である野見山暁治などの作品をはじめ、7000 点を超えています。

平成 27 年 3 月には、隣接する美術の森緑地を一新し、“幻想美術動物園”として屋外アートを配置した魅力的な空間が誕生しました。小さなお子様連れで来館する方が増えています。

作品に新しい価値を見いだしながら、斬新な視点・切り口で様々な展覧会を開催し、近年は 10 万人を超える来館者数で好評を博しています。

練馬区立美術館の特徴・強み

- ① 立地：駅に近く、交通アクセスがよい。
- ② 活動実績：これまで培った人脈・信頼。独創性の高い企画展。
- ③ 収蔵コレクション：野見山暁治などの作品をはじめ、区ゆかりの作家、日本の近・現代美術を中心に寄託品含め 7,000 点超。
- ④ 併設図書館：併設の貫井図書館は区立図書館 12 館で最多規模の来館者数。
- ⑤ 隣接する美術の森緑地：美術館の前庭として、みどりと動物彫刻が調和した親子連れ等で賑わう憩いの空間。



美術の森緑地



エドワード・ゴリーの優雅な秘密（令和元年）



まるごと馬場のぼる展（令和3年）

現施設の課題

開館から 36 年が経過し、施設や設備の老朽化が進んでいます。展示・収蔵環境の維持やバリアフリー、ICT 機器の導入など、対応が必要な多くの課題を抱えています。

また、展示室の規模が小さいため、収蔵コレクションの常設展示や展覧会の大型化・多様化に対応できず、学びや交流の場としての機能やスペースも不十分です。

リニューアルの必要性



現在の展示室



- ・貴重な美術作品を後世に継承する美術館として適切な展示・収蔵環境を維持するため、老朽化した施設や設備を改善する必要があります。
- ・誰もが快適に、気軽に鑑賞できるよう、ユニバーサルデザインを導入する必要があります。
- ・収蔵コレクションを積極的に活用するとともに、大型展覧会などにも対応できるよう展示室を広げ、それに伴う ICT 機器などの設備や機能を備える必要があります。
- ・区民参加と協働を促進し、社会の変化に応じた新たな美術館の役割を果たすための設備や機能を備える必要があります。
- ・大規模改修の時期を迎えた今を“絶好のチャンス”と捉え、現在抱えている課題への対応だけでなく、『魅力あふれる文化芸術拠点』として美術館を生まれ変わらせます。

基本構想の位置づけ

区は、10年後から30年後の将来像を、「暮らし」「都市」「区民参加と協働」の3つの分野で示す「グランドデザイン構想」を平成30年6月に策定しました。その実現に向けた区の新たな総合計画（地方版総合戦略）として「第2次みどりの風吹くまちビジョン」を策定し、具体的な実行計画であるアクションプランを令和4年3月に改定しました。



グランドデザイン構想（抜粋）



文化芸術の香り高いまち

本構想は、グランドデザイン、ビジョンの方向性を踏まえ、美術館のリニューアルについて、さらに具体的な整備内容や取組の方向性などを明らかにしたものです。また、「映像∞文化のまち構想」と策定に着手している「（仮称）これからの図書館構想」とも関連し、それぞれの方向性について連携しています。

3つのコンセプトの実現を目指し、本構想に基づき、今後、美術館のリニューアルを進めていきます。

